

松本市森林再生市民会議 第4回運営委員会 議事録要約書

日時 令和5年1月17日（火）

午後7時～9時

場所 松本市役所 本庁舎3階

大会議室

～ 議事概要 ～

(1) 第2回イベントの報告

- 以下の内容で実施。
 - ・日時：令和4年12月10日（土）13：00～17：00
 - ・場所：松本市岡田伊深 植栽伐採箇所
 - ・参加者：14名

(2) これまでの振り返りと今後の進め方

- 運営委員会の進め方について、以下のような課題が得られた。
 - ・facebook メッセンジャーでのやりとりが増えて情報を追うのが大変
 - ・それらが市民から見えない（内容が会議に報告されない）。
 - ・委員の手間に対して謝金が発生しない。
- これらの課題を踏まえ、今後は以下のように対応する。
 - ・イベント等の作業部会のメッセンジャーグループのメンバーは、担当委員+事務局とし、実施上の相談・連絡調整専用にする
 - ・全委員間の情報交換は、全体のメッセンジャーグループで行う
 - ・次回運営委員会までの間に、急遽議論・決定する必要があるときはオンライン会議を開催し、簡単な議事概要を作成する（内容は対面会議に報告）。
 - ・オンライン会議は参加できる人（過半数以上）で行い、謝金を支払う
- これまでイベントに参加した市民は概ね「森林に関心はあるが具体的関係は少ない」市民。今後も引き続き「森林に関心はあるが具体的関係は少ない」市民を対象とし、この属性に該当する未成年は一人での参加が難しいため、学校との連携が必要。
- 「林業関係者」や「森林と日常的関係がある」市民については、イベントを開催しても関心を持ってもらうことは難しいため、個別のヒアリングや、フォーラムで話してもらうことが、取り込んでいく方法として有効。
- 森林に対して「関心が高くない」市民や「関係性が高くない」市民に、関心、関係性を高めってもらうことが必要で、こういった可能性がある方々がこういった市民なのかアンケートで調べられると面白い。

- ビジョンへの記載内容として以下が挙げられる。
 - ①「放っておいても国や県が進めること（補助金などをつけること）」は書いてもよいし、書かなくてもよい
 - ②「放っておくと国や県はやらないこと」「縦割りで協調して実施されないこと」は絶対に書いておきたい
- ②について、会議やイベントやアンケートなどの意見で漏れなく挙げられるようにしたい。具体的に例示すると
 - ア 県や国ですでに取り組んでいるもの（ビジョンに書くと後押しされるもの）
 - ・国有林の管理
 - ・保安林の管理（治山）
 - ・木材生産の増加・効率化、所有者対策 など
 - イ 市・県・国が取り組むかもしれないが、自動的には森林とリンクしにくいもの
 - ・法律上の「森林」以外の緑地との統一的整備（グリーンインフラ）
 - ・脱炭素（ゼロカーボン）
 - ・生物多様性の保全？ など
 - ウ 自動的には取り組まれにくいもの
- ウについて具体的に何か簡単には列挙できないため、イベントやフォーラム、アンケートで漏れがないよう拾ってけると良い。
- 森林との関係性が希薄になった要因として、森林の様相が大きく変化したことも大きく影響している。昔は疎林で入りやすかったが、今は成長して入りにくいという面がある。関心がないとみられている市民は、森林に対して全く関心がない訳ではなく、「森林に入りたくても入れない」という声も含まれるという仮説が立てられる。
- 入れる森林を知る上で、現状では誰がどこでどんな活動をしているのかを把握するべきで、そのための資源調査は必要。
- 松本市は他の地域より市有林や財産区が多く、散策程度なら入っても問題なさそうな森林を抽出できないか。また、林道や遊歩道がきちんと整備され、歩くのに支障がないかどうか調べるのも大事。
- 「森林に明確な関心がない」市民については、委員の視野が狭くて関心がないと見なしているのではないか。市民が抱える問題に対して森林の面から応えられる解決策があれば、ビジョンの中でうまくカバーしていきたい。
- 「森林に明確な関心がない」市民には、森林に対して明確で具体的な実感がないので、森林をもっと広げて「景観」になれば関心があると思う。森林の概念やイメージをもっと広げても良い。
- 松本市は都市的要素と森林的要素の距離感やバランスが絶妙で健全。環境が整った松本市で、都市とのバランスも取りつつ森林資源が50年後・100年後もある地域としてビジョンを描くには、人々の色々な生き方の多様性を受け入れられる地域という要素が求められる。
- ビジョン作成後は描いたことをどう伝えていくのか、ビジョンというテキストだけでなく、動画や関係者へのインタビュー、webメディアなど伝えていくメディアの工夫が必要。

- ビジョンの伝え方と合わせて、ビジョン作成後にそれをどう実現していくのか、絵に描いた餅にならないよう、運営委員会の 3 年目後半では伝え方などの検討や実作業の方にもシフトしていかなければならない。
- 再生する対象は森林そのものだが、森林と人との関係性を今の時代に合わせながらどう結び直すのかを話し合うことが大切で、この視点では森林への関心の度合いにかかわらず全ての市民が対象になる。

(3) 第 3 回イベント

- 以下の内容で実施予定。
 - ・日時：令和 5 年 2 月 1 8 日（土）1 2：4 5～1 7：2 0
 - ・場所：①竜島温泉 ②北部交流センター（えんてらす）
 - ・定員：20 名

(4) フォーラム

- フォーラムでは、本市で森林に関わる人、関わらない人を含め、パネラー候補を数人挙げて話してもらうことを想定。パネラー候補者は、委員の中では不足するような属性の人材が良い。
- これまでのイベントのことだけではなく、野望を持つ方に話してもらうのもよいのではないか。林業関係者と野望を持った方が議論し合う中で、何ができるか考えるというのも面白い。

(5) アンケート

- (2) の「これまでの振り返りと今後の進め方」で議論した方向性も踏まえながら、今後、担当委員で進めていきたい。
- 今年度中に内容を考え、来年度の早い段階で実施して集計するスケジュールを想定。

議事録要約

1. 開会

(市)

只今から第4回目の運営委員会を開催する。平日のお忙しいところ担当委員の皆様にはご参加いただき、お礼申し上げます。それでは、三木委員長からご挨拶願いたい。

2. 委員長あいさつ

(三木委員長)

2023年最初の運営委員会ということで、今年もよろしく願いたい。平日の夜遅い時間にお集まりいただきお礼申し上げます。21時までの予定ということで、限られた時間の中で今後の進め方等について効率よく議事を進行していければと思うので、ご協力をお願いしたい。

3. 会議事項

(1) 第2回イベントの報告

(三木委員長)

第2回イベントについては、ここに出席の委員の皆さんは参加されていたので、事務局から簡単に資料の説明をお願いしたい。

(環境アセスメントセンター)

第2回イベントの開催概要について報告させていただく。

※説明(省略)

(2) これまでの振り返りと今後の進め方

(三木委員長)

(図1を示しながら)私から資料を示しながら説明させていただきたい。まず、これまでに得られたことをおさらいしておきたい。

- | |
|---|
| <p>① イベントを通じて、森林サービス産業(第1回イベント)、林業現場(第2回イベント)にて市民からの意見を得ることができた。(木材の利用(第3回イベント)は今後実施予定)</p> <p>② 委員間の連携が得られた。</p> <p>③ 運営委員会の進め方について、課題が得られた。</p> |
|---|

③の課題については、ここまで市民会議運営委員会を進めてみて以下のようなことがあるように感じられた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ facebook メッセージャーでのやり取りが増えて(テレビでいえばチャンネル数が増えて)情報を追うのが大変になってきている。・ それらが市民から見えない(内容が会議に報告されない)。・ 委員の手間に対して謝金が発生しない。 |
|--|

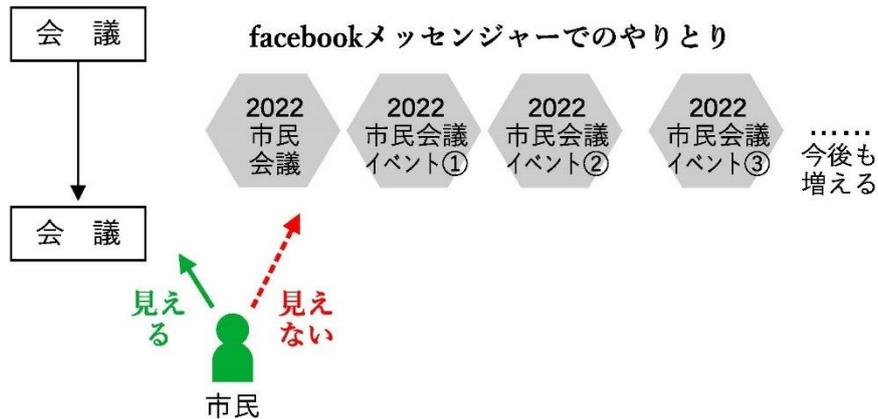


図 1

(図 2 を示しながら) そこで、次のようにしたい。

- ・ イベント等の作業部会のメッセンジャーグループは、担当委員+事務局が実施上の相談・連絡調整専用にする。
- ・ 全委員間の情報交換は全体のメッセンジャーグループで行う。
- ・ 次の対面会議までに急いで議論・決定する必要があるときはオンライン会議を開催し、簡単な議事概要を作成する（内容は対面会議に報告）。
- ・ オンライン会議は参加できる人（過半数以上）でおこない、謝金を支払う。

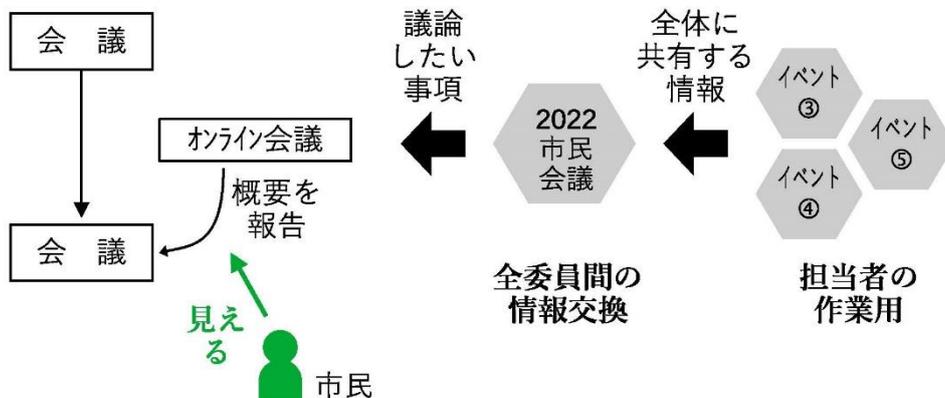


図 2

次に、最終的にビジョンを作成するにあたって、イベント、フォーラム、アンケートを戦略的にどう位置づけるか、私からアイデアを提示させていただきたい。

(図 3 を示しながら) この図は横軸に森林との距離、縦軸に年齢層を取って分類しており、森林との距離が近く年齢層が成人に当たる部分には「林業関係者」の市民が該当する。これとは反対に、松本市には住んでいるものの森林との距離が遠い、または関心が薄い部分には、年齢層を問わず「森林に明確な関心がない」市民が該当する。

その中間として、「森林に関心はあるが具体的関係は少ない」市民、それから「森林と日常的関係がある」市民、例えば財産区の委員や森林ボランティアに従事している方等が挙げられ、全体

としてみると森林との関係性に濃淡が認められる。これまでイベントに参加された市民はどういった方々かを考えると、概ね「森林に関心はあるが具体的関係は少ない」市民の方々が該当し、意見を伺ってきたということになる。

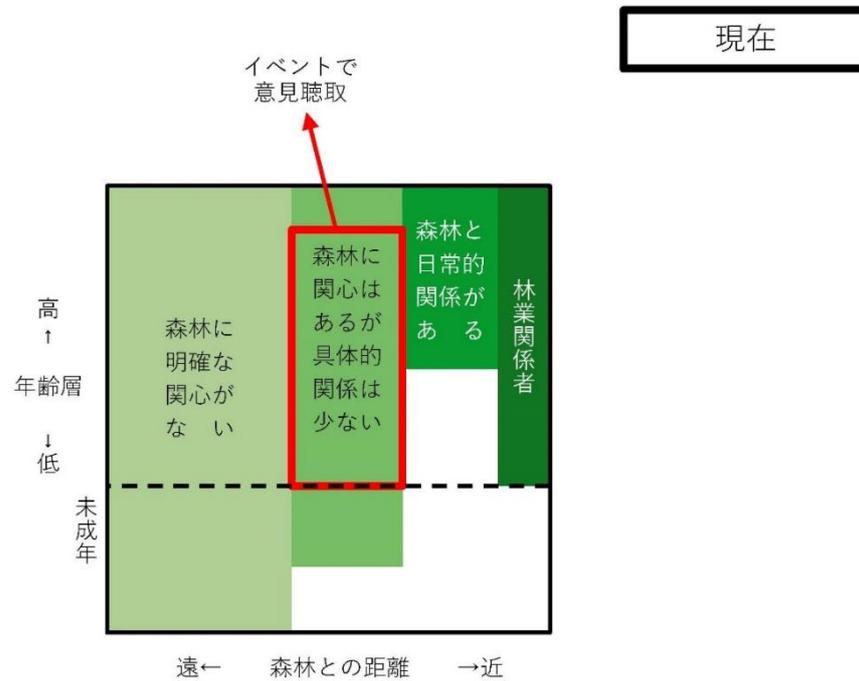


図 3

(図 4 を示しながら) これ以外の方々の意見を聴かなくて良いのかという点が気になるが、これから我々が対象としていかなければならないのは、引き続き「森林に関心はあるが具体的関係は少ない」市民で、未成年については自分一人では参加が難しいため、市内の中学校や高校といった学校との連携が必要になってくる。

「林業関係者」や「森林と日常的関係がある」市民については、我々がイベントを開催しても関心を持っていただくことはなかなか難しい。そこで、個別に訪問してヒアリングしたり、フォーラムに招待してお話いただいたりといった方法が考えられる。「森林に明確な関心がない」市民については、アンケートでご意見を伺えればよいと思うものの、現実的にはニーズや関心について「特にない」と回答される場合が多いのではないかと。

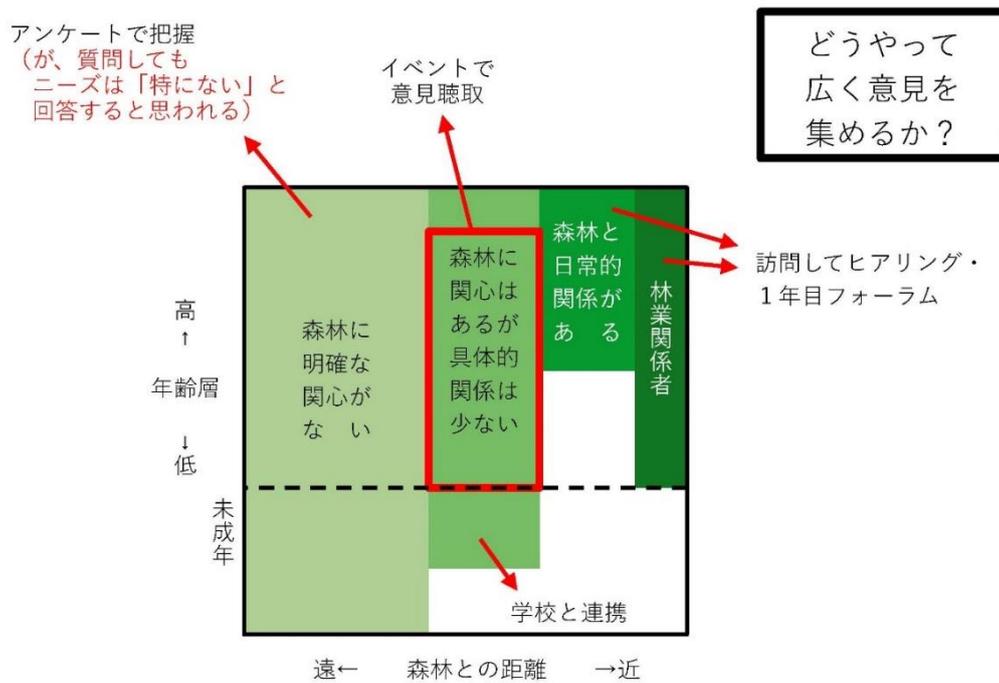


図 4

(図 5 を示しながら) ではどうするかということで、「関心高くない」市民に関心を持っていただく、「関係性高くない」市民に森林との関係性を持っていただくことが必要で、こういった可能性がある方々がどういった市民なのかアンケートで調べられると面白い。では、アンケートでこういった設問をすれば有効なのか現状ではまだ具体的なアイデアはないものの、こういった方々を抽出できれば、その方々を対象としたイベントやフォーラムを 2~3 年目に企画すると、より広範囲の市民から意見を得ることができ効果的である。

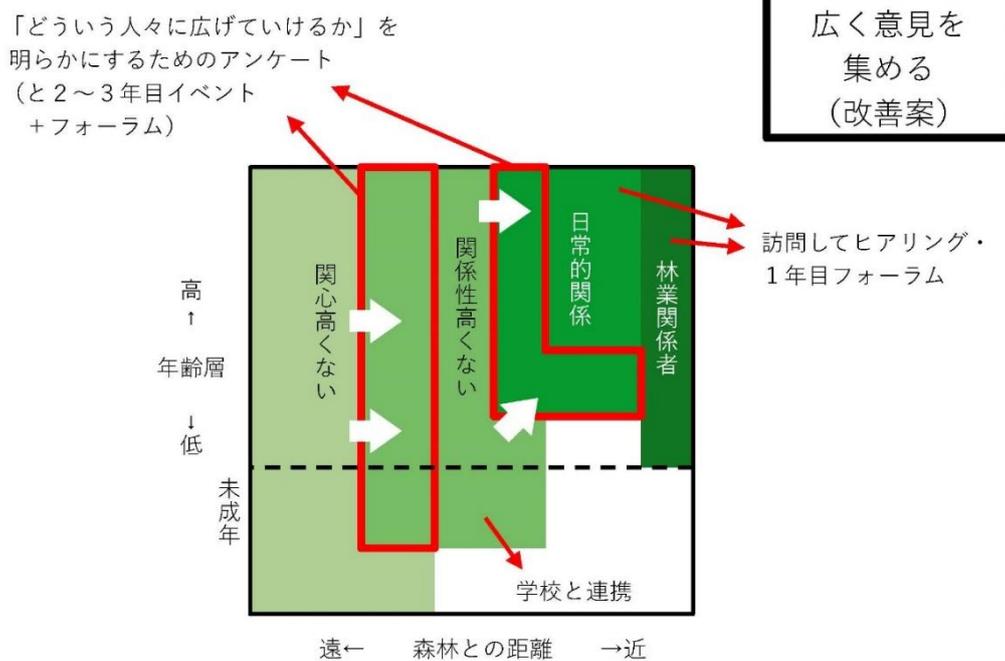


図 5

では次に、ビジョンの中に何を書くかということで、

- ①「放っておいても国や県が進めること（補助金などをつけること）」は書いてもよいし、書かなくてもよい
- ②「放っておくと国や県はやらないこと」「縦割りで協調して実施されないこと」は絶対に書いておきたい

では、②は何か？研究的な視点から挙げられることもいくつかはあるが、会議やイベントやアンケートなどの意見でもって漏れなく挙げられるようにしたい。具体的に例示すると、

- ①県や国ですでに取り組んでいるもの（ビジョンに書くと後押しされるもの）
 - ・国有林の管理
 - ・保安林の管理（治山）
 - ・木材生産の増加・効率化、所有者対策 など
- ②市・県・国が取り組むかもしれないが、自動的には森林とリンクしにくいもの
 - ・法律上の「森林」以外の緑地との統一的整備（グリーンインフラ）
 - ・脱炭素（ゼロカーボン）
 - ・生物多様性の保全？ など
- ③自動的には取り組まれにくいもの

特に③を挙げていく必要がある。これが何かというと簡単には列挙できないため、イベントやフォーラム、アンケートで漏れが無いよう拾ってあげれば。

（清水副委員長）

私の知り合いにヒアリングすると、30年くらい前は年齢層が低い人も森林によく入っていたという回答が返ってくる。子どもの頃から森林に入ることが日常的だったということである。（図3を示しながら）図で言えば「森林と日常的関係がある」市民の箇所より低年齢層の部分（白色の部分）に該当する。

国や松本市でも、この白色の部分に緑色にしたいということを謳っていると思うが、いかが。

（市）

「森林に入りたいけど、具体的にどこに行ったらいいかわからない」という市民の声は多く聞いている。所有者や安全性の問題を解決した上で、具体的な場所を市民に提供することは必要と考えている。

（環境アセスメントセンター）

最近では自然観察会の講師を依頼される機会も多く、自然観察会に対して興味を持たれる児童やその保護者の方が多いという印象がある。「自分自身で自然の中に入っていくのは危なく自信がない」という感覚をお持ちの方が多いということも感じており、観察会の参加者を募集すると応募が非常に多い。

(清水副委員長)

昔と森林の様相が大きく変化したことも大きく影響していると思う。昔は疎林が多かったが、今は森林が生長し入れる場所が少なくなっているという話を聞く。(図3をみながら) 白い部分は全く関心がない訳ではなくて、「森林に入りたくても入れない」という市民の方々も含まれるという仮説が立てられるかもしれない。既存資料とこの図を合わせて分析することで、こういった仮説を検証することもある程度可能である。

(小穴委員)

私が所属する NPO 法人でも信大付属小学校や中学校の生徒との繋がりがある。その他に高校生や大学生とも繋がりがあるので、学校との連携という点では協力できる。森林との日常的な繋がりについては、小さな子どもが森林に入ったり、マウンテンバイクが走ったりしても大丈夫なように整備している場所もあるので、受け皿として提供できる。

(三木委員長)

ビジョンを作成する際に、“こうしたらいい”という内容だけ盛り込むと、ビジョンを読んだ市民は「本当にそんなことできるのか？」と思うかもしれないが、“すでにやっていること”、例えば木質バイオマスを利用した温泉施設などを先行事例として紹介すれば、方向性を示しやすくなるのではないかな。

(永原委員)

(図3を指しながら) やはり白い部分から緑色の部分に市民を誘導していくことが大事だと思う。自分が子どもの頃を思い返すと、山菜やきのこ採取目的で祖父に連れられて森林に入った思い出があり、食べ物目的で森林に入るのはとても楽しいという面がある。例えば、市有林で山菜が採れる森林を整備して、採れる山菜の講座イベントを開いたりすれば、恒常的に市民が森林を利用する仕組みができる可能性がある。

(小山委員)

こういった話は私が学生の頃からぐるぐる回っている。先ほどあった自然観察会なども20年ほど前にはかなり流行った時代があった。20年前に体験した世代が親になって自身の子どものにも体験させたいというリバイバルブームが来ている気がする。学校では、環境教育を生活科の授業で取り上げる際、当初、なかなかうまくいかない点が多かったが、時間を経て内容が洗練されてきて、学校との連携面ではうまくいくようになってきた。

(図3を見ながら) 一方で、一番左の「森林に明確な関心がない」市民を我々はどこまで取り組みの対象とする必要があるのか、整理しておかなければいけない。

(香山委員)

ビジョンなのであるべき姿を示していくということになると思う。現状を見た上でこれから先どうすれば良いのか、昔のように林業従事者が増えていくべきなのか、それとも現状で良いのか。松本市のような都市から森林まで包含する中核市においては森林に対して多様な価値観を持つ市

民がいることを踏まえ、我々はどうのようなビジョンを作っていくのか。松本市では森林を林業の面で重視するよりも景観の面で重視したほうが良いといった意見もある。ビジョンを作成する上では、特にフォーラムが様々な市民の意見を拾い上げる場になれば良いのではないかと思います。

(清水副委員長)

入れる森林を知る上で、現状では誰がどこでどんな活動をしているのかを把握するべきで、そのための資源調査はぜひ必要だと思う。例えば、どこでどんな活動をしているか、活動場所の面積は何 ha で何 km くらい歩けるか、安全レベルはどの程度か、といった要素が挙げられる。入れる森林はすでにある程度存在すると考えても良いと思う。

また、環境影響評価の項目では「景観」があり、東京大学ではこの景観評価に関するアンケートを作成している。景観に関心はあるが、実際に森林には入らない理由が分かってくるようなアンケート内容で、ビジョン作成のためのアンケートを作成する際にも活用できるのではないかと。

(環境アセスメントセンター)

資源調査の面では、以前資料として配布させていただいた地図情報の中で、公園施設、キャンプ場、遊歩道などの整理はできている。その他に更に土地所有などを整理すれば、さらにどの森林に入れる・入れないといった視点で整理することができる。

(小山委員)

松本市は他の地域より市有林や財産区が多く、散策程度なら入っても問題ないような森林を抽出しては。それから、林道や遊歩道は実際にはきちんと整備されていて歩くのに支障がないかどうかという点も大事。市と環境アセスメントセンターでこれらを整理していただくことは可能か。

(市)

林道で言えば、観光利用のものから林業用の作業道のようなものまで用途に幅があり、それらを分類することは可能であると思う。

あくまでも個人の責任で入ってもらうところがほとんどであるため、入れる場所となると難しい部分もある。

(三木委員長)

具体的に入れるか入れないかという点も大事だが、ビジョンに役立つ情報を抽出できるという点がより重要。

(図3を示しながら)「森林に明確な関心がない」市民をどうして白色にしなかったかというところ、委員の視野が狭くて関係がないと見なしているところもあるのではないかと疑問があり、薄く緑色を付けている。グリーンインフラの会議に参加した際、お母さん達から「子どもたちを遊ばせてちょっと目を離しても安全な場所が欲しい」という要望があったが、都市型の公園や、ある場所では森林がそのニーズを満たすかもしれない。

その他にも例えば、ある集落に聞き取りに行ったとして、「普段利用している道の両脇には立派なアカマツやカラマツの林があって、冬場になると林で日影になる場所はいつまで経っても雪が

融けず危険だ」という話が聞けるかもしれない。我々からすると森林に関係する問題には思えないかもしれないが、低木林になったりすれば解消できる問題かもしれない。

他にも市民は、森林への不法投棄や熊の出没など森林に関連した問題を感じているかもしれないが、感じている市民自身は森林の問題だとは認識していないという状況が想像される。こういった問題に対して我々が森林の面から応えられる解決策をビジョンの中で取りこぼしてしまう可能性があって、そこをうまくカバーしたい。

アンケートについても、森林とは関係がないと思っている市民に、森林の面から解決できるかもしれないと思ってもらえるような聞き出し方ができないかという思いがある。

(菊地委員)

“松本市”という地域ならではの森林ビジョンを改めて意識する必要があると感じている。この“松本市”という地域において森林はどういうものであって欲しいという視点がないと、取りこぼしが生じると思う。都市的要素と森林的要素の距離感やバランスが松本市は絶妙で健全であると日常的に感じていて、こういった環境が整った松本市で、50年・100年後にどのような森林との関係性を築いていくのかを描くのがビジョンの役割だと考えている。ただ単に絵に描いた餅にしないために、ビジョンでは具体的な入り口を示す必要がある。

都市とのバランスも取りながら森林資源が50年後・100年後もある地域として松本市を描くには、人々の色々な生き方の多様性を受け入れられる地域という要素が求められると思う。木々に囲まれて蛙の声を聞きながら寝ることもできれば、自転車で10分も移動すれば都市の中で仕事することもできるといった環境はあるようではなかったりする。

その他にも、自然に向き合って農業をしたいと思えばしっかり仕事として農業ができるし街に買い物に週末出掛けるのも容易とか、森林で林業をしっかりやりたいという希望を持っている人にはその環境が整っているといった具合に、多様な生き方を支える要素の1つとしての森林という捉え方もできるかと思っている。それを実現するとなった場合に、森林の必要性や将来における有益性を分かってくれている市民がいてくれることは重要。

(図3を示しながら)一番左側に属する市民を切り捨てるのではなく、関心を持ってくれるような方々を積極的に探しに行くことが、この運営委員会でも必要な意識のある行動では。

ビジョン作成後は描いたことをどう伝えていくのか、ビジョンはテキストで作成されるのは当然のことながら、テキストだけで十分なのか、テキストだけだと一番左側に属する市民には恐らく届かないと思う。伝えていくメディアはテキストだけでなく、動画や関係者へのインタビュー、webメディアなど、この運営委員会の3年目頃に話し合っていってもいいのかと思っている。

(三木委員長)

なぜこの会議が“市民会議”という名称で終わらず“市民会議運営委員会”なのかというと、ビジョンを作るだけでなくその後市民に伝えていく作業があるだろうし、伝えた後にビジョンに描いた松本市を作っていくお手伝いをするという役割があるから。

市役所や林業関係者だけが頑張るのではなく、市民自身が作っていただかないといけないが、そういった将来を想定してこの会議は“運営委員会”ということ。この運営委員会の3年目後半では、ビジョンを作った後どうやって実現していくのか、実作業の方にシフトしていか

ければならない。

(小山委員)

全体の方向性は今お話をしてきた内容で良い。将来どうあるべきなのかについては、自分達に都合の良い人達だけで進めないという共通理解はできた。松本市の市民全体を上手に抱き込みながら、森林と街との関係がどうあるべきなのかというふうに少し間口を広げても良いのかなと思った。

そうすると、森林サイドから見たらどうなのか、街サイドから見たらどうなのかという連携の動きにもなる。委員会冒頭で三木委員長から説明であった「自動的には取り組まれにくいもの」というのは、街サイドからの視点でもある。ビジョンの視点として森林サイドだけでなく街サイドも含まれれば、「自動的には取り組まれにくいもの」も拾い出しやすいのでは。

(三木委員長)

森と市民との関係性のビジョンという視点で、職業として森林に関わる市民だけでなくそれ以外の市民も含めて考えた場合、ビジョンにどういった項目立てをするかが見えてくる。項目が立てられればその中で具体的に何をするかはそれほど難しいことではないのかな。

(清水副委員長)

東京から来た友人が松本市に来て最初に漏らす感想として「なに、ここはスイス？」というのがある。「森林に明確な関心がない」市民には、森林に対して明確で具体的な実感がないということであって、森林をもっと広げて「景観」にまでなれば関心がある。森林の概念とかイメージをもっとラフというか、薄く広げても良いのかもしれない。

(菊地委員)

この会議は“森林再生市民会議”ということで、森林という生態系を再生していかなければならないという状況をこの会議に参加させて頂き勉強してきたところであるが、再生する対象は森林そのものでありつつも、森林と人との関係性や、森林と人との営みを今の時代に合わせながらどう結び直すのか、ただ単に昔に戻るのではなく、現在や将来を見据えた際に森林と人とはどういった関係を再生すれば良いのかを話し合うのが森林再生市民会議であり、それを運営していくのが我々なのでは。特に、森と人との関係性の部分では市民が出番なのかな。

(清水副委員長)

“森林への関心の再生”なのかなと思う。

(3) 第3回イベント

(市)

第3回イベントについて説明※資料5の説明(省略)

(清水副委員長)

見学先の塩尻市北部交流センター（えんてらす）の設計はとても興味深いので、設計者からお話を伺えると楽しいかもしれない。

（三木委員長）

北部交流センター（えんてらす）は、私も大学の講義でご案内いただいたことがあって、ご案内いただく職員の方は、どういった意図でこういう建物にしたのかとか、建物を造るにあたっての木材調達等の苦労話など色々お話いただけるのでは。

（清水副委員長）

都市計画法では燃える素材の使用は制限が掛かるため、どうやってクリアしたのかといった点も聞いてみたい。設計者と発注者の思いが上手く重ならないと進まなかったのではと想像する。

（三木委員長）

日常的に管理されている方に解説していただくため、実際の管理運営面での苦労や市民からの反応の声なども聞けるかと思っている。建物の軒下ではコーヒーや野菜を扱ったちょっとした市場が催されている。施設が地元産材で出来ているという点だけでなく、こういった施設を市民がどのように活用されているかという点でもお話が聞けるかと思っている。

広報の方はどういう状況になっているか。

（市）

『広報まつもと』へ掲載し、松本市のホームページにも載せる。また、第1回・2回のイベントの参加者アンケートに回答いただいた開催案内を希望された方にもメールする予定。

（4）フォーラム

（三木委員長）

フォーラムで具体的に何をするか、私からの提案としては、松本市で森林に関わる人や、場合によってはそうでない人も含めて、パネラー候補を何人か挙げて話してもらおう。例えば、これまで財産区を運営されてきた方に、森林の素晴らしさや高齢化に伴う管理運営面での課題をお話いただくといったことが考えられる。パネラーの話聞きながら、松本市には森林に関わる市民・関わらない市民がどのような状況でいらっしゃるのかを聞いて、ビジョン作成の上での参考にするという流れを考えている。

具体的なパネラー候補としてどういった方々がいらっしゃるのか、委員や事務局にも聞きながら、作業部会の方で内容を詰めていきたい。パネラー候補者としては、養蜂家や森林を観光面で利用されている方など、委員の中では不足するような属性の人材を招いてお話いただく。その場に多くの市民が参加して盛り上がるという状況は難しい面もあるが、1年目はまずそういうところから固めていきたい。

（清水副委員長）

思いつくところでは、松本市で燻製のお店をされている「燻製工房 燻丸^{くんまる}」さんとか、朝日村でオーダーメイド家具を造られている「Style Galle(スタイル ガレ)」さんとか。以前菊地委員へお手紙を寄せていただいた「道を作りたい」という熱い想いを持った方もいいかもしれない。

(香山委員)

美鈴湖でキャンプ場を運営している柳沢林業が、キャンプ場運営だけでなく美鈴湖周辺の地域全体を観光事業として盛り上げようという動きがある。観光庁の補助事業として実施していて、ちょうど次の土曜日(1/21)にも美鈴湖の森を考えるセミナーを開催する予定である。

この事業に関わる柳沢林業のリーダーや若いメンバー、柳沢林業以外の観光業から携わる方もいて、このセミナーでも面白い人材に出会えるのではないかと期待している。具体的なプロジェクトとして、事業地である本郷財産区の森林をどうしていくのか、今は観光という切り口で考えているが、森林の使い方として林業と観光とアウトドアと色々ごちゃ混ぜになったようなビジョンが現れそうな期待がある。

(三木委員長)

これまで実際にやってきたことだけではなくて、野望を抱えている人に話してもらいたいかもしれない。その野望を後押しするために、我々はビジョンの中で何を取り上げなければならないのかということも考えられるのではないか。

(小山委員)

フォーラムのインフォメーションとして、例えば「松本の森で野望を語り合いたい奴、来い」とか、若干挑戦的ではあるがそういう場にしてみたいのかな。林業に本格的に関わっている関係者と野望を持った人が議論し合う中で、何ができるか考えるというのも面白いかもしれない。それから、事務局の方々も松本市民なのでどんどん発言してほしい。

(三木委員長)

フォーラムの構成として、野望を語りたい方々に語ってもらう前半部分と、それを踏まえて皆で議論し合う後半部分といったような流れはあるかもしれない。登壇者が話してそれで終わりという流れにはしたくない。この後具体的な部分については担当委員で進めていきたいと思うが、他にご意見があれば。

(大田委員)

私の周りでは「森林を使ったイベントをしたい」という意見を聞くが、実際に実行に移すまでの過程が複雑で知識もないので、そういった方々と専門家を繋げる場にフォーラムがなれば良い。

(三木委員長)

フォーラムで相談窓口を設けるといい。

(5) アンケート

(三木委員長)

内容に関して今ここで議論することは考えておらず、(2)の「これまでの振り返りと今後の進め方」で方向性を示させていただき、アンケートの雛形になるものが存在するという話もしていただいた。これからの準備を考えると今年度中にアンケートを配布するのは難しい。

今年度に内容を考え、来年度の早いうちに実施して集計するというスケジュールでしか動かせないでは。清水副委員長を中心として香山委員、小山委員、私の4名の担当委員で進めていきたい。

(清水副委員長)

3月18日のフォーラム後から4月初めまでの間に、今あるデータを突き合わせ見えてくることを話し合っ情報共有することをやりたい。

4. その他

(環境アセスメントセンター)

イベントやフォーラム、アンケートにより様々な意見が出てくると思われるが、ビジョンの検討に資するよう、これら意見の情報整理を分かりやすく行っていきたい。アンケートについても、要望を出して頂ければ対応していきたいので、委員の皆様の一助をいただける形でお手伝いできれば。フォーラムについては、先を見据えた議論を行っていくことはとても良いと感じた。また、森林に関わっていない市民がこれから関わるきっかけを提供できるようなネットワーク形成の場にもなるべきだと思っており、ちょっとした展示や出店もできる限り取り組んでみることも必要。

(小山委員)

以前 Messenger でもご紹介させていただいたが、2月10日実施される「第6回アルプス公園実行会議」の中で、ニセアカシアの駆除と里山づくりの話をする予定である。この中で松本市森林ビジョンと連携するような話をしていきたい。できるだけこの運営委員会が他の委員会とアメーバのようにくっついていくようなチャンスを活かしていきたい。

5. 閉会

(三木委員長)

ちょうど時間となったため、これで閉会とさせていただきます。